

一 般 質 問 通 告 書

上記の件について、下記のとおり質問したいので、会議規則第 62 条第 2 項の規定により通告します。

令和 2 年 11 月 20 日
東村山市議会議長 あて

議席番号 8 番
質 問 者 清水 あづさ

記

1. 子供たちの「心を育てる」教育のあり方について

新型コロナウイルス感染症が小学校、中学校それぞれに齎した影響は甚大で、今後の教育現場に大きな変化や、長期化すれば、システムの抜本的な見直しを必要とする議論も生じると思われます。当市もデジタル化を加速する取り組みを推進していますが、学校教育は、知力と人間力を育む事が基本になると思います。

いまだ収束への道筋が見通せない状況ではありますが、日々成長する子供たちを取り巻く状況を東村山市教育委員会の主要施策に基づき、これからの「心を育てる」教育の取り組みについて以下伺います。

(1) 取組 1 学びの基礎を徹底し、個々の能力を最大限に伸ばす

- ① 実質 6 月からの登校になり、特に新入生やクラス替えがあった学年の児童、生徒の学校生活の中で、居場所や友達作りなどで留意した点を伺う。
- ② 安定した授業時間数の確保が困難な状況で、どのように子供たちの学習意欲を高め、個々の能力を見極めていたかを伺う。

(2) 取組 2 豊かな人間性を培い、規範意識を高める

- ① 本来であれば親睦を深めたり、自主、自立、協同の精神を養う学校及び地域行事の中止が児童・生徒に与えた影響と代替行事への子供たちの反応を伺う。
- ② 社会や自然体験、交流活動などの学習の機会が例年通りにならない中で、規範意識の向上への取り組み方をどのように考察したかを伺う。
- ③ 今年度の小、中学校の特別活動（学級活動・児童、生徒会活動・クラブ活動）の状況を伺う。又、それらの集団活動を通じて身に付く、思いやりの心や社会生活の基本ルールをどのように指導しているかを伺う。
- ④ 文科省も「新型コロナウイルス感染症 差別・偏見をなくそうプロジェクト」の啓発動画を作成して、感染に対する不安からの差別・偏見・いじめ等に陥らない取り組みをしている。正しい判断力と、想像力の向上への取り組みについて伺う。

(3) 取組3 社会の変化に主体的に対応できる力を高める

- ① SDG s（持続可能な開発目標）で、日本が達成されていると評価された「目標4 質の高い教育をみんなに」が有るが、SDG sの考えに基づき取り組んでいる教育内容を伺う。

(4) 取組4 体を鍛える

- ① 体育の授業や休み時間など体を動かす機会の中で、今年度におけるの注意点、様子の変化を伺う。
- ② コロナ禍での子供の急激な体力低下が懸念されるが、体力の低下が子供たちに与える影響について伺う。

(5) 取組5 健康、安全に生活する力を培う

- ① 感染リスクが高いと思われる食事時間の新たなルールやマナーを伺う。又、食育の上でどのように捉えているか伺う。

(6) 取組7 質の高い教育環境を整える

- ① 長期間の休校や変則的な登校など新たな取り組みの環境に順応出来なかったり、不登校になった児童・生徒の有無を伺う。又、その様な場合の対応を伺う。
- ② ギガスクール構想の実現に向けて、ハード・ソフト面の整備だけではなく、児童・生徒、保護者の新たな環境の受け入れ準備についての進捗を伺う。
- ③ インターネットでの誹謗中傷・いじめなど、今後考えられる問題について、どのような対応策を講じているか伺う。

(7) 取組8 家庭の教育力向上を図る

- ① コロナ禍での児童虐待の増加や、家庭不和が子供に与える影響をどのように把握し、対応しているか伺う。
- ② 新たな日常と言われる今後、子供たちを見守り安定した環境の確立のため、学校と保護者の情報、意見交換の場への取り組みについて伺う。
- ③ 家庭学習の時間など、保護者との連携の必要性が重視されたと思われるが、これからのペーパーレス化に向けて、考察する点を伺う。

(8) 今後、デジタル化が加速し、オンライン授業が浸透した場合、今は当たり前相手の目を見て話す、相手の気持ちを察する、相手の立場を理解するなど、人との交流で体感して成長していく「心」をどのように育成するのか見解を教育長に伺う。